

タイ・チェンライ県での研修も後半のプログラムに入りました

8/21 (日) アカ族の村でのホームステイ最終日です



充実した時間を過ごしたホームステイもお別れの時間が来てしまいました。子供たちはお花を摘んでくれました。お母さんはアカ族伝統の「旅の無事を祈る」儀式をしてくださいました。これは茹で卵を握らせてもらい、黒い木綿糸を手首に巻いてもらうものです。この糸は何か月も切れることはありません。お母さんが被っている頭飾りの金属の部分は純銀でできており、1年中外すことはありませんが、若い人たちにはこの頭飾りを着用する習慣はもう見られないようです。親切にいただいた村の方たちとの別れはとても寂しく感じました。

小学校 (Banhuaymaesai School) でのボランティア活動 8/22



【日本語の授業】



【日本文化紹介 (書道)】



【折り紙も紹介しました】



【全員で記念撮影】

本日は小学校でのボランティア活動を行いました。前日にはミラー財団でタイの学校制度や実情についてレクチャーを受けました。生徒達は「アイスブレイク」「日本語授業」「日本の文化紹介」の三つのグループに分かれ準備にあたりました。昨年度はスタッフの方にすべてを教えていただきましたが、今年は生徒達だけで企画を立て、授業の流れ等の準備をしました。当日はタイ語での自己紹介から始め、計画通りに授業を進めました。小学校5・6年生の生徒が対象ですが、特に折り紙に興味深々で熱心に取り組んでいました。



午後はカレン族の村で象乗りとエサやりの体験をしました。カレン族は象と共に生きてきた民族です。現在は労働や移動に象は使わなくなりましたが、象使いの操る象に乗って揺られる体験は忘れられない体験でした。

タイ・ミャンマー・ラオス3カ国の国境を接するエリアを訪ねました。8/23



【ゴールドトライアングル】

ゴールドトライアングルとして知られる国境地帯に行きました。写真の中央の二つの川に挟まれている三角形に見えるところがミャンマー、こちら側がタイ、画面の1番右端に見えているのがラオスです。昔はアヘンの原料であるケシを栽培していたことでも有名な場所です。

この近くにある立派な王立オピウム博物館でアヘンとその歴史について学びました。アヘンの怖さとともに撲滅へ向けての取り組みを知りました。

国境の町、メーサイを訪れました。橋を渡るとすぐにミャンマーです。二国間を行き来する人や車両で賑わっています。



【国境の町メーサイ】

午後に Boon Kru Nam (児童養護施設・ドロップイン) を訪問しました。ここはミャンマーから来たストリートチルドレンの一時避難所です。ストリートチルドレンとなってしまう子どもの問題、麻薬や売春問題、国籍がないために生じる深刻な問題など私達には衝撃的な話を沢山聞きました。生徒達に呼びかけて1年間を通して集めた文房具をお渡ししました。施設の方は、まず問題を多くの人に知ってほしいと話していました。



【Baan Kru Nam】



【ミラー財団での最後のまとめのミーティング】

夜にはこの研修で感じたこと、考えたことを皆で発表し合いました。この成果を日本に持ち帰り、より研究を深めたいと考えます。日本で私たちにできることの1つとして情報の発信ができればよいと考えています。